

◆今期間のポイント

<主要しょう乱の概要>

- 4日は、冬型の気圧配置が緩み、気圧の谷が日本海から北日本付近へ進む。大陸の高気圧が日本の南に張り出す。
- 5日は、気圧の谷が日本の東へ進み、冬型の気圧配置が強まる。
- 6日から7日は、冬型の気圧配置が次第に緩み、本州付近を気圧の谷が通過する。
- 8日は、低気圧が発達しながら千島近海へ進み、冬型の気圧配置が強まる。

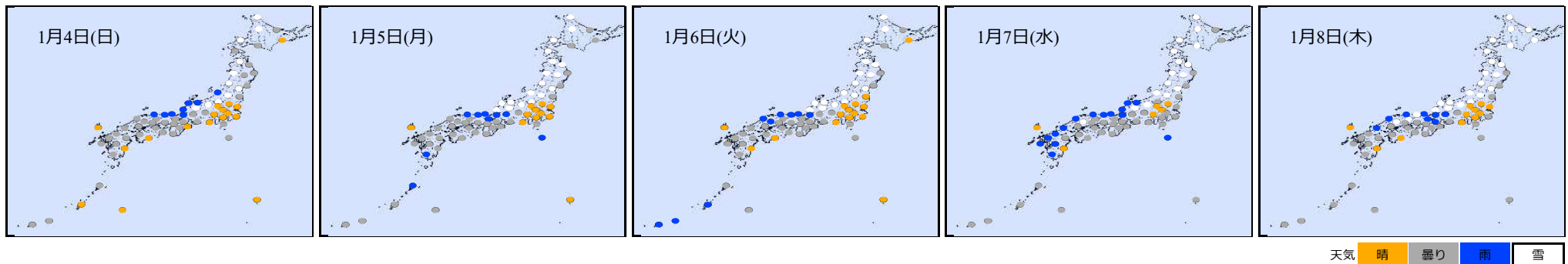
<防災事項> 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- なし。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

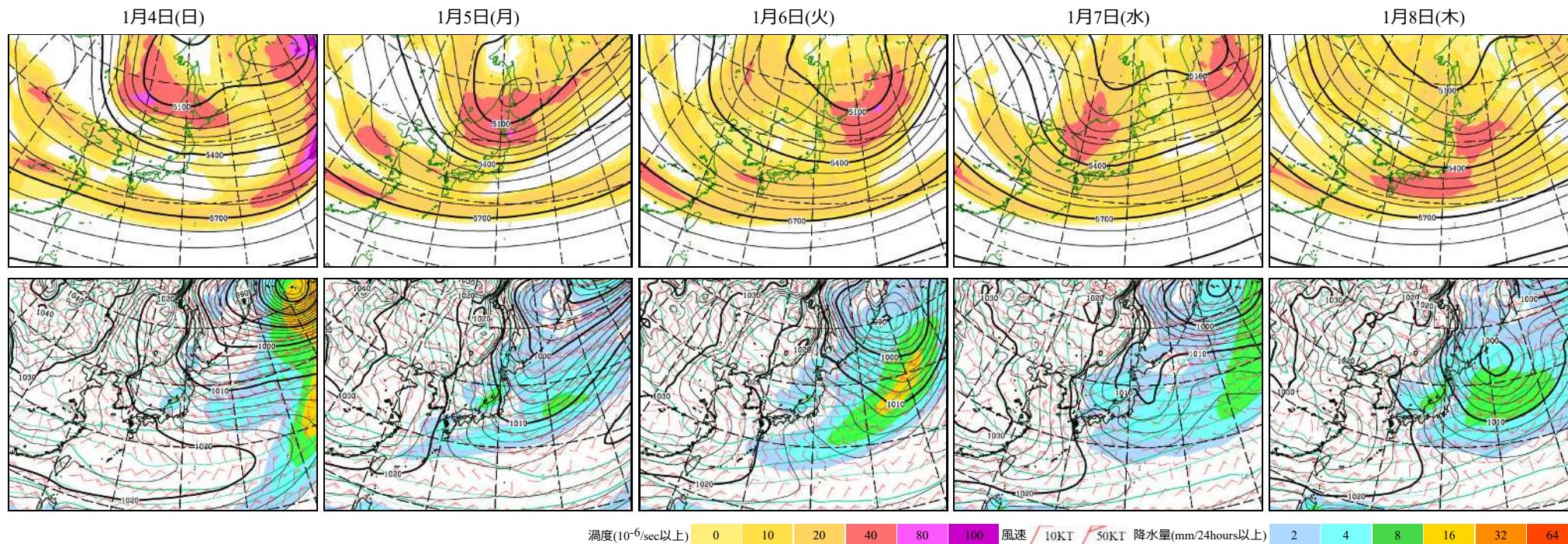
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案 (11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。)

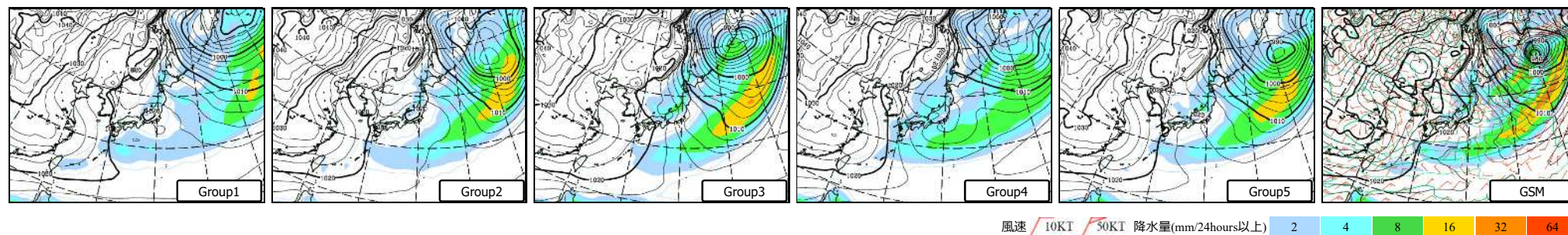


- 北日本と東日本から西日本にかけての日本海側は、曇りや雪または雨の降る日が多い。
- 東日本から西日本にかけての太平洋側は、曇りや晴れる日が多いが、雨または雪の降る所がある。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすく5日と6日は雨の降る所がある。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆1月6日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、5日は日本付近を東進する気圧の谷の進みが遅くなり、東シナ海付近で気圧の谷が深くなったため、九州地方から奄美地方の降水確率ガイダンスの値が大きくなった。
- 5日まではモデル間の差は小さいが、その後はトラフの位置や強さにばらつきが見られ、低気圧の位置や発達に違いが見られる。
- スプレッドは期間の後半は大きく、5400mの特定高度線にばらつきが見られる。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考える。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。